



## 令和7年度全国学力学習状況調査の結果から

今年4月に6年生を対象に実施した全国学力学習状況調査の結果について、国語・算数・理科の学力について、及び、学校生活や学習状況に関わる児童質問紙への回答状況について考察いたしましたので、その一部を紹介します。児童の良いところは更に伸ばし、見えてきた課題については改善に向かうよう努め、今後の全学年の授業づくり、及び、教育活動に生かしてまいります。

### ○「国語」「算数」「理科」の調査結果から

#### 【国語】

聞く意図に応じて話の内容を捉える設問、時間や事柄の順序など考えながら内容の違いをとらえる設問など、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の正答率が全国や県よりも高くなっています。特に、目的に応じて文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つける設問では、正答率が全国や県よりはるかに高い結果となりました。継続して行っている朝読書や、教科学習の中で行う調べ学習の成果として、情報を選択する力がついてきているととらえています。

一方で「書くこと」に関わる設問ではやや正答率が低く、自分の考えを分かりやすく書いて発信することに課題が見られる結果となりました。

国語だけでなく、総合的な学習の時間等で、学習したことや調べたことを発表する内容を書くなど、目的をもって自分の考えを書いて伝える学習を重ねて、「書く力」「伝える力」を高めてまいります。

#### 【算数】

国語では「書くこと」に課題が見られたのですが、算数では記述式の設問の正答率が高い結果が見られました。特に「方法」を記述する設問では、県平均より正答率が高くなりました。式や図の意味や考え方を自分の言葉で説明する機会を意図的にとってきたことが、数量関係から必要な情報を選び、それを使って説明を記述することが成果として現れたととらえています。

一方で、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ の計算問題の正答率が県・全国の正答率より低い結果となりました。 $\frac{1}{6}$ が5つ分、つまり共通な単位量のいくつ分、という計算の基本を今一度確認していく必要があります。また、方眼上の5つの図形の中から台形を選択する設問は、定義を確認し、図形を回転させて考える見方も授業の中で取り入れていくようにしたいと考えています。

基礎的な計算方法や図形の性質をとらえること、基準となる数を見出して数量の関係をとらえることなど、基礎基本の知識の習得と活用を組み合わせた授業を全学年で行っていきます。

#### 【理科】

全国や県の平均正答率と比べ、極端に正答率が低かった問題はありませんでした。「ヘチマの花のつくり」や「ベルをたたく装置の電磁石について電流がつくる磁力を強めるためのコイルの巻き数の変え方」の問題は全国や県の平均よりもよくできていました。実際の観察や実験など、体験を通して学んだことが身についているととらえられ、実感を伴う学びの大切さが分かります。

今後も、単に知識を得るだけでなく、知識をもとに概念的に理解したり、観察や実験を通して知識と関連付けて考察したりするなどの力を更に高めていきたいと考えます。「そのことから何が言えるのか」等の視点を大切に、日常の中でも科学的なものの見方・考え方を育ててまいります。

以上の考察結果より、学校全体で次の点を大切に今後学習に取り組んでいきたいと考えます。

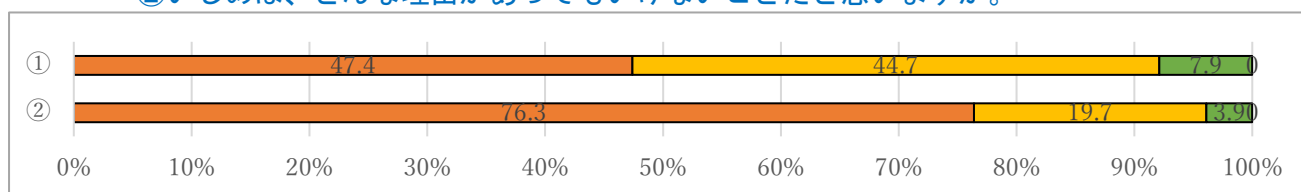
- ①漢字や計算などの基礎基本の定着。(ひとりひとりの子どもに合わせた指導・配慮に努めます。)
- ②思考力・判断力・表現力の向上。(友だちとの対話や考えの共有、児童の実態に合わせた方法で、解答を導き出す方法を図式化したり、自分の考えを説明したりする学習を繰り返すことを目指します。)
- ③体験的な活動の実施。(観察や実験、見学や調査などを多く取り入れながら、探究的な学びを大切にします。)

## ○児童質問紙の回答から 学校目標(なかよく、かしこく、たくましく)の実現に関わる項目から抜粋

1 あてはまる ■ 2 どちらかといえばあてはまる ■ 3 どちらかといえばあてはまらない ■ 4 あてはまらない ■

**なかよく:** ①人が困っているときは、進んで 助けていますか。

②いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

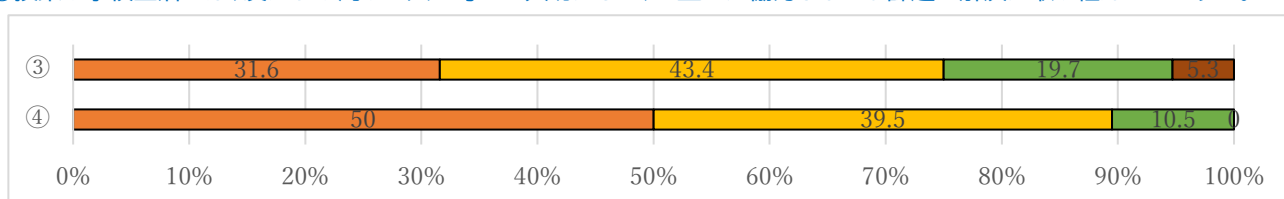


いずれの質問も、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と肯定的な回答をした児童が、90%以上となっています。特に、いじめについては、日常生活の中や道徳の授業、なかよし旬間での取り組みの中で、繰り返し考え合う時間をとってきています。どの児童も毎日楽しく登校できること、1学期のなかよし旬間で決めた学級宣言の内容が実現されることを願い、いじめや友だちについて考えることを継続して取り組んでいきます。永明中学校区3校が目指す子ども像「相手に生きる私」を求め、相手の気持ちや立場になって考えることを意識づけてまいります。

**かしこく:**

③分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することはできていますか

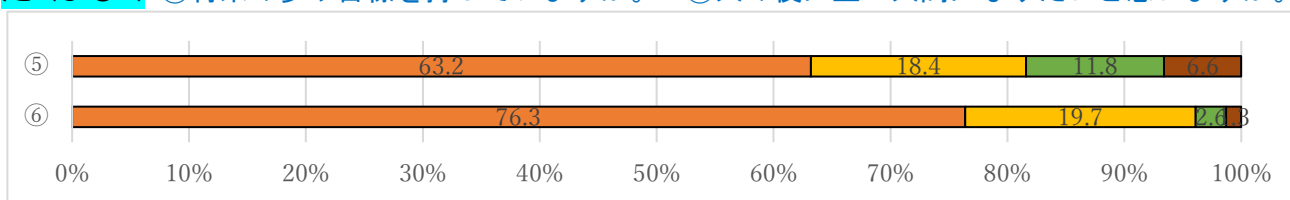
④授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



自分で学び方を考え工夫すること、友だちや周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題解決に取り組むことについては、県や全国の平均と比べわずかに低い結果となりました。

困難な問題に向かう時、「分からない」「無理」とすぐにあきらめてしまわず、粘り強く課題に向かう姿勢を身に着けることが必要だととらえています。友だちの考えを聴いたり、友だちの考えと自分の考えを比べたり、友だちや先生に質問したり、自分に合う様々な方法を試しながら、学び方も学べる授業を工夫していきます。

**たくましく:** ⑤将来の夢や目標を持っていますか。 ⑥人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



将来の夢や目標を持つことについて、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は、県や国と概ね同程度の割合となっています。今はまだ夢や目標が定まっていなくても、様々なことに興味関心をもって挑戦し、自分の好きなことや得意なことを伸ばしていくことを願います。茅野市のヴィーナスプラン1に掲げられているように、一人ひとりの多様性を認め合い、自分らしく、個性を輝かせられるよう、今後も地域を学ぶ学習やキャリア教育をさらに充実させてまいります。

また、人の役に立つ人間になりたい、という気持ちをほとんどの児童がもっていることを嬉しく思います。だれかのために心を尽くせる温かい気持ちをもった人に育ててほしいと願っています。

これらの考察結果を受け、永明小学校が児童にとってより良い学びの場となり、ひとりひとりが自分らしく個性を輝かせられる場となるよう、日々の授業や学校運営の向上に努めてまいります。